



TOKYO THERMAL

ビル空調
は
社会の顔
と
言って良いと思う

俺の欠かせな
ズレ



俺の欠かせない
イズム

社会に欠かせないものって、何だろう。
暮らしに欠かせないものって、何だろう。
仕事に欠かせないものって、何だろう。
私、東京サーマルで働いています。

T. Thermal

この現場は、俺が仕切る。
その覚悟の先に、

次の自分。

株式会社 東京サーマル 技術部 H.K

自分の目で最後まで見る
“ものづくり”の魅力

工学部工学科の出身だから製造系や機械系の仕事に就こうかと考えたこともあります。ものづくりをイメージした時、例えば自動車製造なら、エンジン・足回り・車体など、専門分野ごとにエキスパートがいて、最初から最後まで総合的に携わるのはなかなか難しいですね。でも、空調・衛生設備は建物の中に組み込まれるものでありながら、設計・部品調達・設置・検査・客先との交渉など、完成に至るまでの全てをこの目で確かめながら仕事ができるのが魅力です。

現場の向こうに
“欠かせない何か”が見えてきた

入社して4年の私でも、これまで大小合わせて60件以上の現場を担当しました。現場は、当初の計画通りに仕事が運ぶ場合や、予期せぬ計画変更でスムーズにいかない場合など、一つひとつ違った「顔」を持っていることが分かってきました。経験を積み、それぞれの顔の表情と向き合っていると、その向こう側に自分が関わった設備を使う人たちの自然な表情がオーバーラップしてくるようになりました。

使命感を抱き、達成感を味わう。

オフィスがある品川のビルを一步出れば、心のどこかに現場を仕切る使命感がわいてきます。現場を任せられるということは、東京サーマルを代表して現場を見るということ。全てが自分の肩にのしかかってくるように、お客様や協力会社のスタッフとの緻密でスピーディな意思疎通が求められます。若手だろうがベテランだろうが関係ありません。それが、東京サーマルが仕切る現場です。



※パンフレット内に記載の所属や年次などは取材当時のものです。



TOKYO THERMAL



知らないままより
知って得する



俺の欠かせないイズム

社会に欠かせないものって、何だろう。
暮らしに欠かせないものって、何だろう。
仕事に欠かせないものって、何だろう。
私、東京サーマルで働いています。

コミュニケーションが強い味方。
あたって砕けた

目の前の壁。

株式会社 東京サーマル 技術部 W.Y

入社きっかけは、
その瞬間のワクワク感

もともと就活の第一希望は電気メーカー。大学で学んだ電気系の専門性を生かせると思って就職先を探していました。ところが、大学のキャリアサポート課から東京サーマルを紹介されたのがきっかけでこの世界に飛び込んでみました。勿論、「ズバリ!勉強していた分野」ではなかったのですが、空調・衛生という知らない分野を知れるワクワク感がその時芽生えたのは確かです。そもそも、知らないことが自分の知識になるのがたまらないと思うタイプなので、全く悩まなかったですね。

空調も電気も快適な暮らしに
欠かせないもの

入社4年目で任された地下1階から地下4階までの大きな現場になると、単なるオフィスビルだけでなく、地下の変電設備を含めた作業になるため、関わる作業員も相当な人数になります。当社の担当は空調・衛生がメインですが、全体の電気系統も絡むことから大学時代に学んだ知識が役に立ちました。電気も空調も人の暮らしを快適にするための大切なインフラであることには変わりがないことを強く感じます。

上司の一言で芽生えた
自分流の仕事

現場で作業する方は、いわゆる職人さん。自分の親くらいの年齢の方も多く、接し方に戸惑いがないと言えば嘘になります。仕事にどっぷり嵌まった話題では対等に会話できないこともたくさんありました。そんな時でも心に誓っていたのは自分から積極的にコミュニケーションを深めていくこと。会社の上司からも「思うようにやってみな!」と言われ、その意思だけは忘れずに毎日の仕事にあたっていたところ、ある日俺流のやり方が受け入れられて成長を実感できました。



※パンフレット内に記載の所属や年次などは取材当時のものです。

文系出身者のマインドが
生かせる仕事。



TOKYO THERMAL



俺の
「かせな
人スト」





俺の欠かせないイズム

社会に欠かせないものって、何だろう。
暮らしに欠かせないものって、何だろう。
仕事に欠かせないものって、何だろう。
私、東京サーマルで働いています。



現場監督は調整のプロ。
俺の言葉一つで

スタッフが
一致団結。



株式会社 東京サーマル 技術部 S.Y

現場では文系出身の
人間力も躍動する

迷うことなく大学の就職支援課にあった
情報で東京サーマルを選びました。出身
大学には、そもそも理工系の学部があり
ません。それに関わらず、東京サーマル
の求人が来ているということは何かの意
味を感じました。私自身、経済学部出身だ
から商社や銀行の営業職よりは、現場
の空気感を味わえる仕事に就きたいと、
心のどこかで望んでいたのかもしれませんが。
入社後は約3ヶ月の研修でその後は
実戦です。先輩に同行すると、「現場はこ
ういふものだよ」「研修で習ったよね」と、
私でも分かるように指導してもらいました。

相手を迷わせない簡潔な指示、
これは絶対に欠かせない

現場スタッフが集中して作業できるよ
うに環境づくりを行うのが監督の仕事。
指示方法にも気を遣い、相手が迷うこと
なく作業できる指示を常に心掛けていま
す。ゼネコン、不動産会社、テナント、ビル
オーナーなど、要望の中身は同じかもし
れませんが、会話では微妙なニュアンス
の違いが出るものです。そのため、なる
べく単純で簡潔に、分かりやすい言葉に
することが大切。入社した頃はそのコツ
が掴めずに苦労しました。



“責任感”こそ現場監督の必携アイテム

例えば、大手ショッピングモールを展開
するお客様の現場でも、店舗ごとに仕事
の進め方が違います。前の現場で通用し
たことが、次のお客様では違ってくる場合
があるので、作業の進行が必然的に変
わってしまいます。現場における当社の
スタンスの違いがある場合は尚更です。
でも、どの現場でも変わらないのは現場
を仕切るという責任感。ちょっとしたミス
が設備全体、ビル全体の欠陥になりかね
ないので、責任感をもって現場と向き
合っています。

※パンフレット内に記載の所属や年次などは取材当時のものです。

現場
で躍動、

海外からの
情熱



TOKYO THERMAL

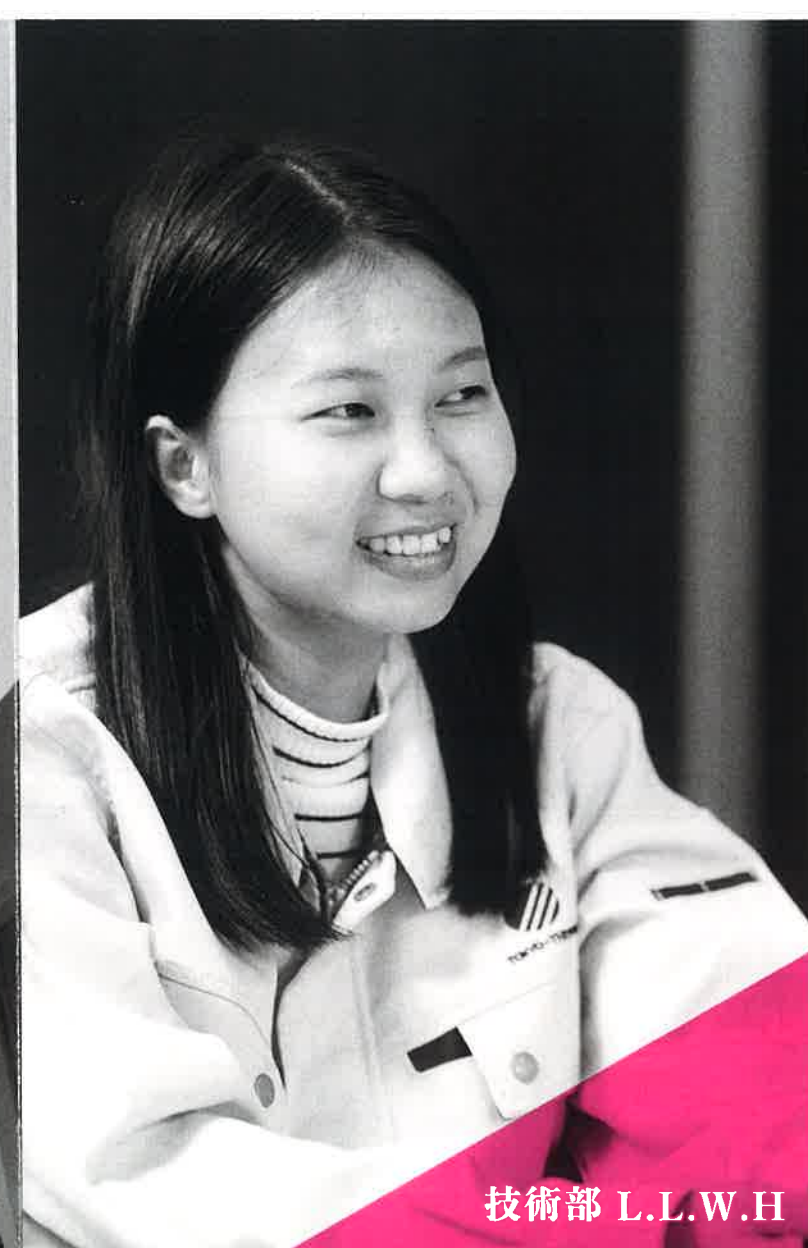


私たちの
私たちが
グローバル



私の欠かせないイズム

社会に欠かせないものって、何だろう。
暮らしに欠かせないものって、何だろう。
仕事に欠かせないものって、何だろう。
私たち、東京サーマルで働いています。



技術部 L.L.W.H



技術部 P.T.N

芽生えたマインド、毎日の仕事で上昇中

あまり想像できないかも知れませんが、ミャンマーでも日本と同じくらい冬は寒くなる地方があります。私はその出身で、大学卒業後は日本語の勉強をして日本企業を目指しました。専攻は電気ですが、今は給湯配管の交換など衛生分野を担当しています。さまざまな専門用語が飛び交う現場、書類に目を通せば漢字との格闘、日本語への対応に苦労する毎日ですが、支えているのは、地球環境にも人間にも優しいインフラ設備に関わっているという強い意志です。日本に来て芽生えたマインドをさらに高め、東京サーマルの戦力としてお客様に貢献していきたいです。

やってみたかった、日本での空調工事

ミャンマーの工科大学出身の私は、母国でも電気工事関係の会社で現場管理者の仕事に就いていました。ミャンマーと日本では仕事のやり方は少し違いますが、わずか1年ですがその時の経験は役に立っています。現地の情報で東京サーマルを知り、空調・衛生・配管などにも興味があり、技術職希望で思い切って来日しました。とにかく今は経験を積む毎日、協力会社への指示や現場の安全管理に奮闘しています。空調の無い暮らしは、もはや考えられません。空調を通じて暮らしやすい環境を提供したいという気持ちで頑張っています。

